

広報市民リポーターだより
第4回

『きりたんぽ ふるさと小包訪問』

広報市民リポーター 奈良岡 忠一(西大館町)

郷土の名産きりたんぽを、全国に普及させようと「ふるさと小包」ゆうパックを発送している郵便局、きりたんぽの宣伝に力を注ぐ市観光物産課、おいしいきりたんぽ作りに努力している市内製造業者を訪ねてみました。郵便局では「たった今、特製きりたんぽ・ゆうパックの販売打ち合わせ会議が終わったところですよ」と、局長室へ案内されました。

ごろに、郵便局でも地元の活性化に協力しながら、郵便事業の増収も図れないかということになったんです。それで全国的にふるさと小包の計画が提案され、ここ大館局でも郷土の名産をと検討した結果、きりたんぽに行き着いたわけです。

このきりたんぽを全国へPRする方法として考えついたのは、食べ方も味も一番良くしている、他県にお住まいの大館市出身の皆さんを対象とすることでした。その方たちのご親族の皆さんからご利用いただければと、宣伝に努めました。



ゆう♥バック

「そうですね、昭和五十七年



大館郵便局で(左が奈良岡リポーター)

に改良・改善に努め、真空パック方式を経て、現在は生のままでおいしさをそっくりお届けできる包装に切り替えています。もちろん、生鮮食品を扱いますから、衛生面では保健所の指導

を得て十分な配慮をしています。

ふるさと小包は毎週水曜日にまとめて発送していますが、航空便でのパレット輸送ですから、全国へ遅くとも週末、北海道・関東・関西方面のご家庭へは早ければ翌日にお届けできます。大館局から郵便自動車で秋田空

港へ、空路羽田へ運ばれ、全国の小包が集まる新東京局到着。その輸送ホームでは百数十台の郵便自動車が待機し、関東一円へ配送するといったシステムになっているんです。

元年度四千三百個、二年度三千六百個、四年度には四千百個と、近年のグルメブームによるテレビ紹介なども幸いしてか、取り扱い件数は順調に伸びてきました。昨年は小包にアンケートを同封し、千近い回答をいただきました。おもしろかったというのが多かったですよ」

本物の味を全国へ

市観光物産課では、きりたんぽ宣伝のため毎年「東京きりたんぽ祭」を開催していて、毎回千食分余りの試食用きりたんぽを準備して行くのですが、いつも長蛇の列であつと言う間に無くなってしまふほど好評を博しているそうです。また、全国ネットでテレビCMを流したこともあり、首都圏の大手デパートで開催される秋田県物産展などでも本場大館きりたんぽの紹介に努めているとのことでした。

一方、今回訪ねた業者の方は、「きりたんぽは、焼き加減や鍋にいれる具などでも味が違ってきますが、とにかくスープが命です。初めて食べる方にも、せ



市内の業者でも取材

ひ本物の味、おいしさを知ってもらいたいと願っています」と話してくれました。

小包に添えたい贈り主のメッセージ

今回、三方所を取材しましたが、小包を贈る側のひとりとして、ふと、小包の中にあいさつ程度の手書きメッセージを入れるられるようにしたらと考えました。現行の郵便法では通信文の同封は認められていないということだったので、メッセージ入りのふるさと小包なら、いっそう贈り主の心が込められるのではないのでしょうか。

大館郵便局の今年の目標は六千個と伺いました。きりたんぽはもとより、大館のPRのためにも、ぜひ目標を達成するようがんばって欲しいと思います。